

12/18 木

大阪府の職員らでつくる大阪府関係職員労働組合(大阪府職労)は、「地域住民の命と健康を守りたい! 保健師、保健所職員を増やしてください」とネット署名を立ち上げ、3万6000人の賛同が集まっています。(笛島みどり)

大阪府職労 賛同3万6000人

署名の取り組みはコロナ禍で大阪の感染が広がるなか、10月1日からオンライン署名サイト「Change.org」で開始。①大阪府職員の定数を増やし、保健師の計画的採用と増員、保健所職員の定数増②都道府県の保健所機能強化・定員増をするための施策――を大阪府知事と厚生労働相に求めています。

救える命が救えない 保健所増員求めネット署名

賛同者からは「保健所を減らし、カジノだけ実現すればすべてが回るかのようにいう維新勢力を追い詰めなければ」など

のコメントが寄せられています。

府職労の小松康則委員長は「保健所の現状を踏まえてもなお、府は来年度の職員定数を増やすな

ばなりません」と話します。



「救える命が救えなくなる」と、保健所の機能強化・定員増を訴える大阪府職労の動画

保健所職員は「命を守る最前線にいるので、ミスは許されない」と誇りや緊張感を語ります。他方、「午前9時出勤から早くても帰宅は午後9時。深夜2時の帰宅のときも」「保健所が削られ続けた大阪で、今の人手不足のままでは救える命が救えない」と訴えています。

小松委員長は当面、10万人分の署名を集め「大阪府だけでなく、各地の保健所で働く仲間を増やしていく」と意気込んでいます。